2
エステル
聖徒伝 207

神の約束と私たちの応答

エステル記3～4章　ユダヤ人殲滅の法令と嘆きの中で

Shikaoichurch.com

アウトライン

0. イントロダクション

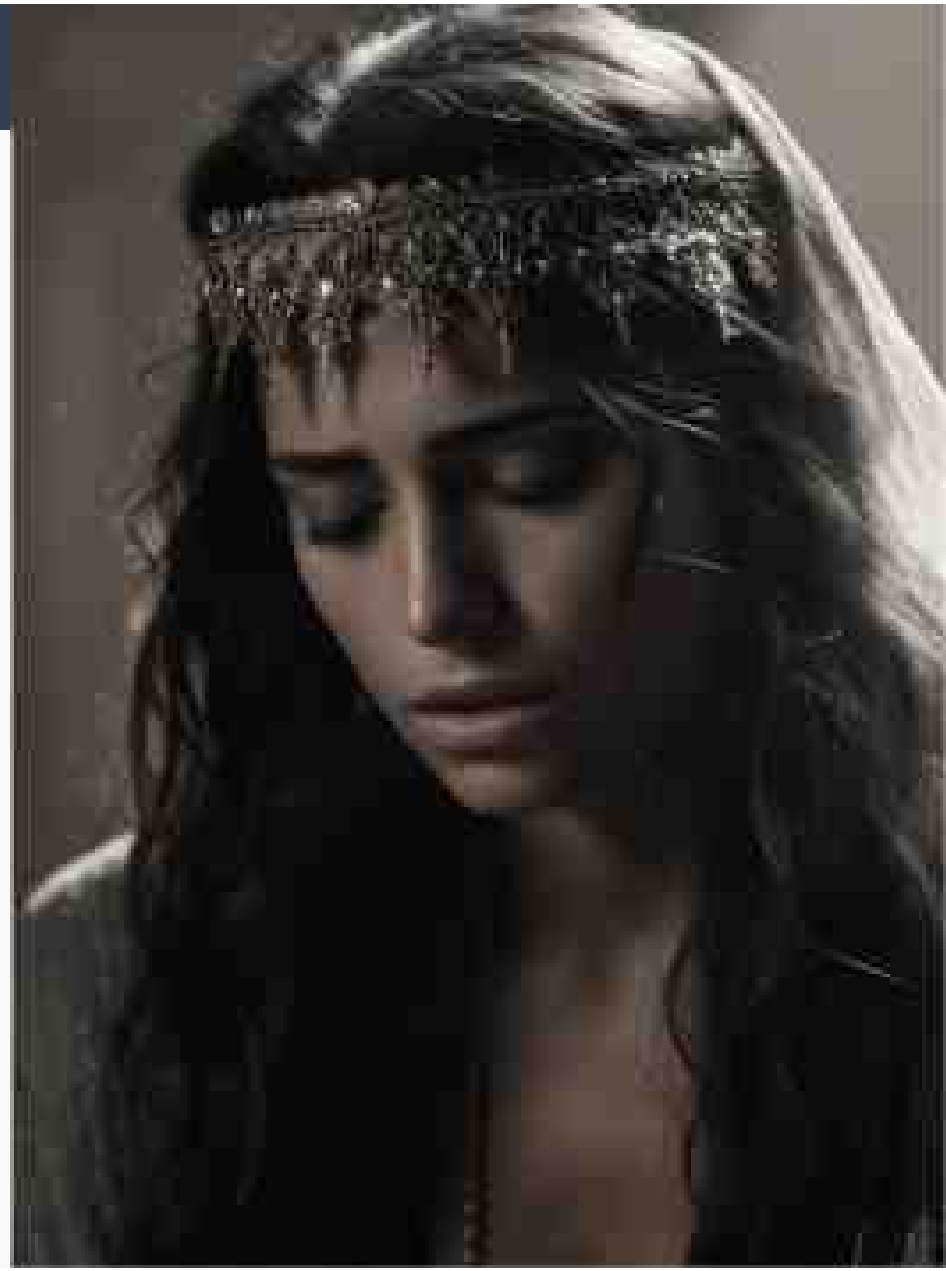
Ⅰ. ユダヤ人殲滅命令　3章

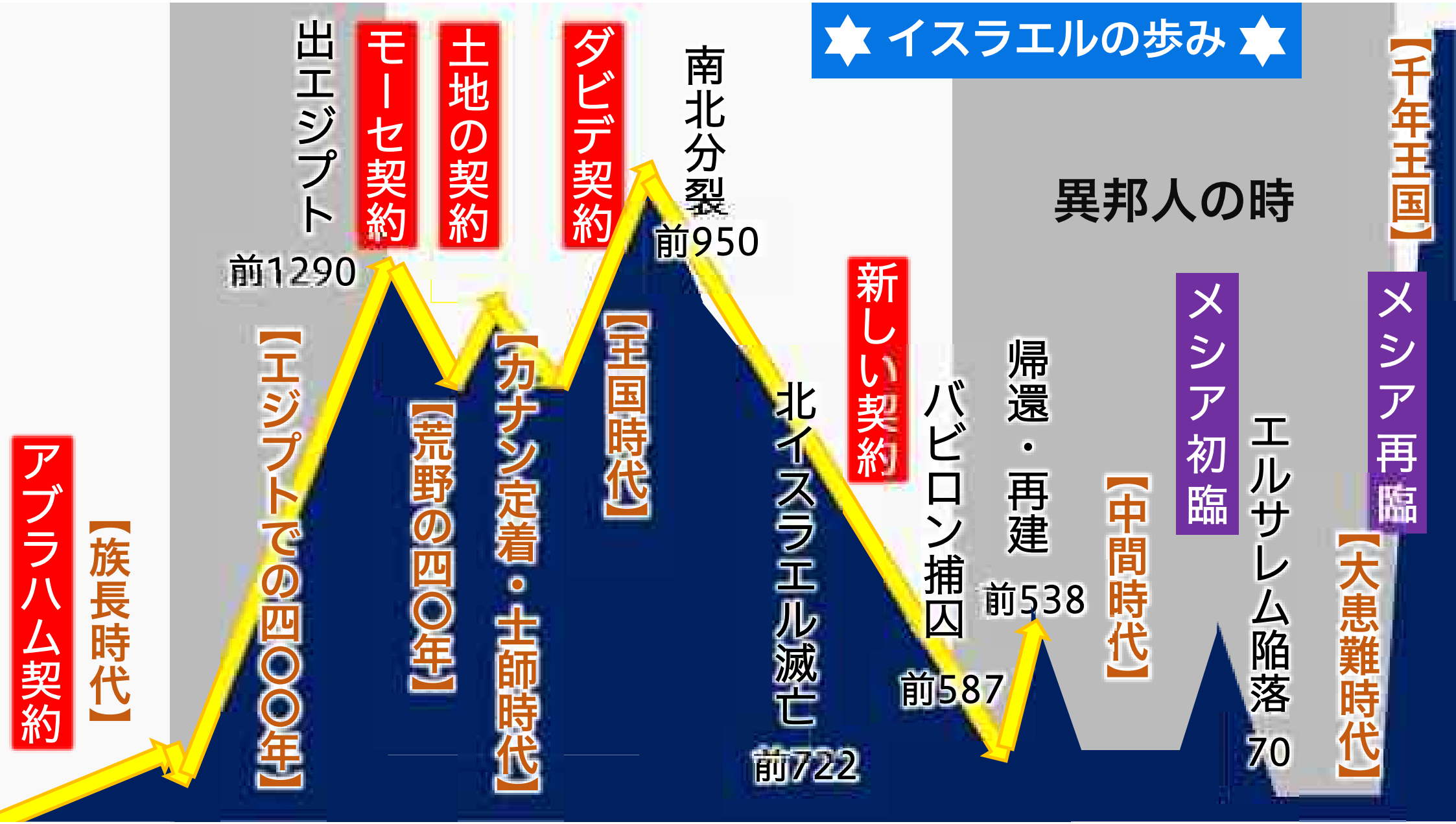
Ⅱ. エステルの覚悟　4章

Ⅲ. まとめと適用

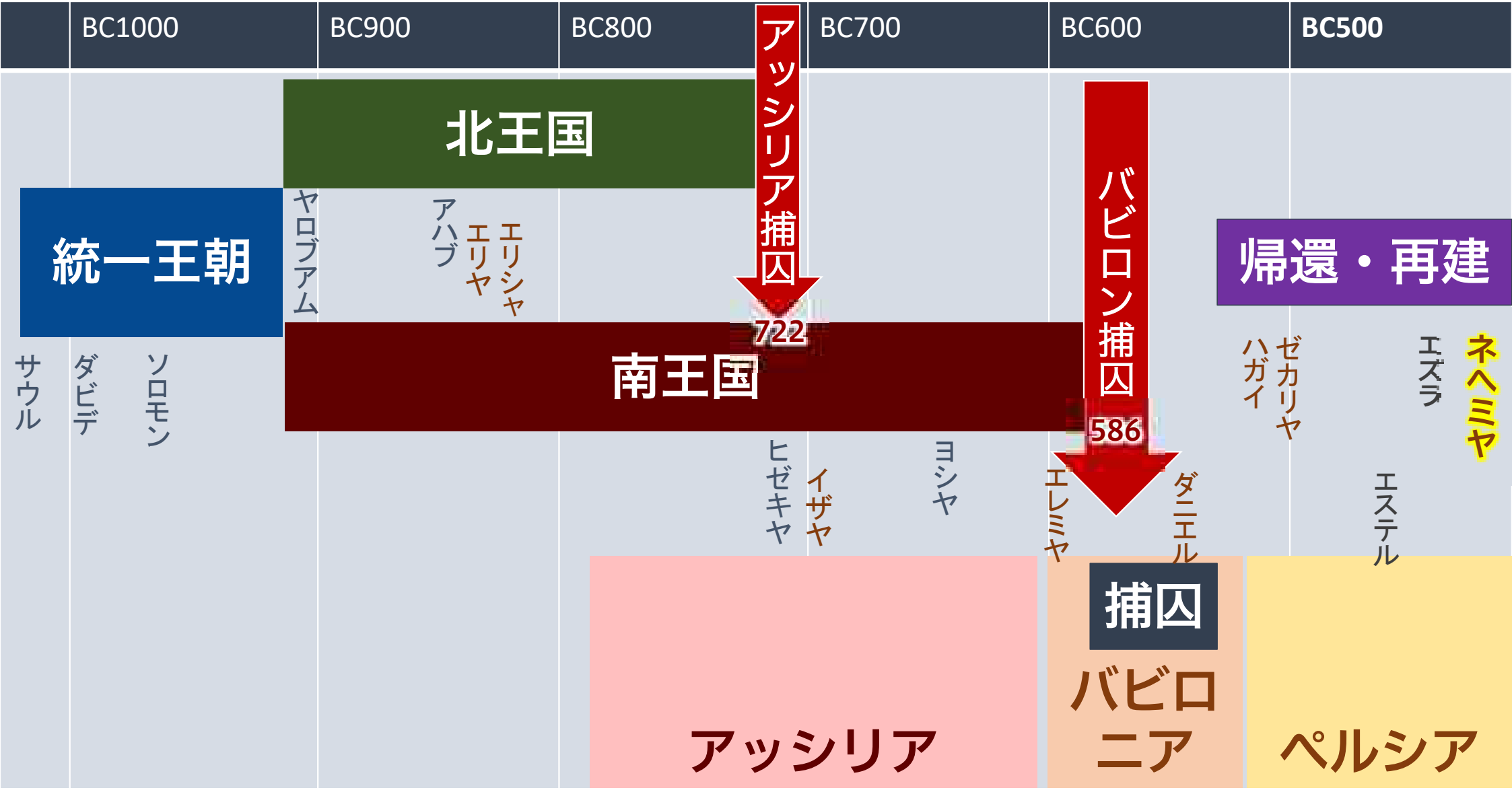
神の約束と

私たちの側の応答




イスラエルの歩み
アブラハム契約
【族長時代】
【エジプトでの四〇〇年】
出エジプト
前1290
モーセ契約
土地の契約
【荒野の四〇年】
【カナン定着・士師時代】
ダビデ契約
【王国時代】
南北分裂
前950
北イスラエル滅亡
前722
新しい契約
バビロン捕囚
前587
帰還・再建
前538
【中間時代】
異邦人の時
メシア初臨
エルサレム陥落
70
【大患難時代】
メシア再臨
【千年王国】

イスラエル王国史


BC1000
BC900
BC800
BC700
BC600
BC500
北王国
統一王朝
ヤロブアム
アハブ
エリヤ
エリシャ
アッシリア捕囚
722
南王国
バビロン捕囚
586
帰還・再建
サウル
ダビデ
ソロモン
ヒゼキヤ
イザヤ
ヨシヤ
エレミヤ
ダニエル
ハガイ
ゼカリヤ
エズラ
ネヘミヤ
エステル
捕囚
アッシリア
バビロニア
ペルシア

年代表　捕囚後の時代

年代	イスラエル	ペルシア
前538年	約5万人が帰還 **ゼルバベル**	バビロン陥落 **キュロス王**の布告
前520年	**ハガイ**・**ゼカリヤ**の帰還	**ダレイオス王**　第2年
前515年	神殿の完成	
前486年～ (52年後)		**エステル**がペルシャの王女に **クセルクス王**
前458年 (80年後)	**エズラ**のエルサレム到着 律法の確認・霊的覚醒	**アルタクセルクス1世**
前444年 (94年後)	**ネヘミヤ**が帰還・城壁再建	

エズラ記

アケメネス朝
ペルシア帝国
バビロン
スサ
エルサレム
ペルセポリス
エジプト

エステル記の特殊さ

- ヤハウェの名が一度も出て来ない。完全に外国が舞台。
- 女性の名が書名に。（ルツ記とエステル記のみ）
- 新約聖書に引用がない。
- モーセの律法への言及がない。
- 祈りへの言及がない。断食を行ったとは記されているが…。

異国にとどまった不信仰の民の物語　➡際立つ神の憐れみ

前回までのあらすじ

- クセルクセス王の国を挙げての大宴会だったが、
  王妃ワシュティが王の命令に背いて来場せず、空気は一変。

- 王の権威を保つため、王妃は追放。新たな王妃候補が招集。
  ユダヤ人エステルが、王の特別な寵愛にあずかり、王妃に!!

- そんな中、官吏だったエステルのおじモルデカイは、
  王の暗殺を未然に防ぐ功績を立てていた。

この後、王の重臣ハマンが恐るべき計画を実行に移す!!

Ⅰ．ユダヤ人殲滅命令　エステル記3章

ペルセポリスの遺跡

ハマン　ハマンの昇進　エステル3:1～2

これらの出来事の後、クセルクセス王はアガグ人ハメダタの子ハマン*を重んじ、彼を昇進させて、その席を彼とともにいる首長たちのだれよりも上に置いた。

＊“壮大な、すばらしい”

ハマン　ハマンの昇進　エステル3:2

それで、王の門のところにいる王の家来たちはみな、ハマンに対して膝をかがめてひれ伏した。王が彼についてこのように命じたからである。しかし、モルデカイ*は膝もかがめず、ひれ伏そうともしなかった。

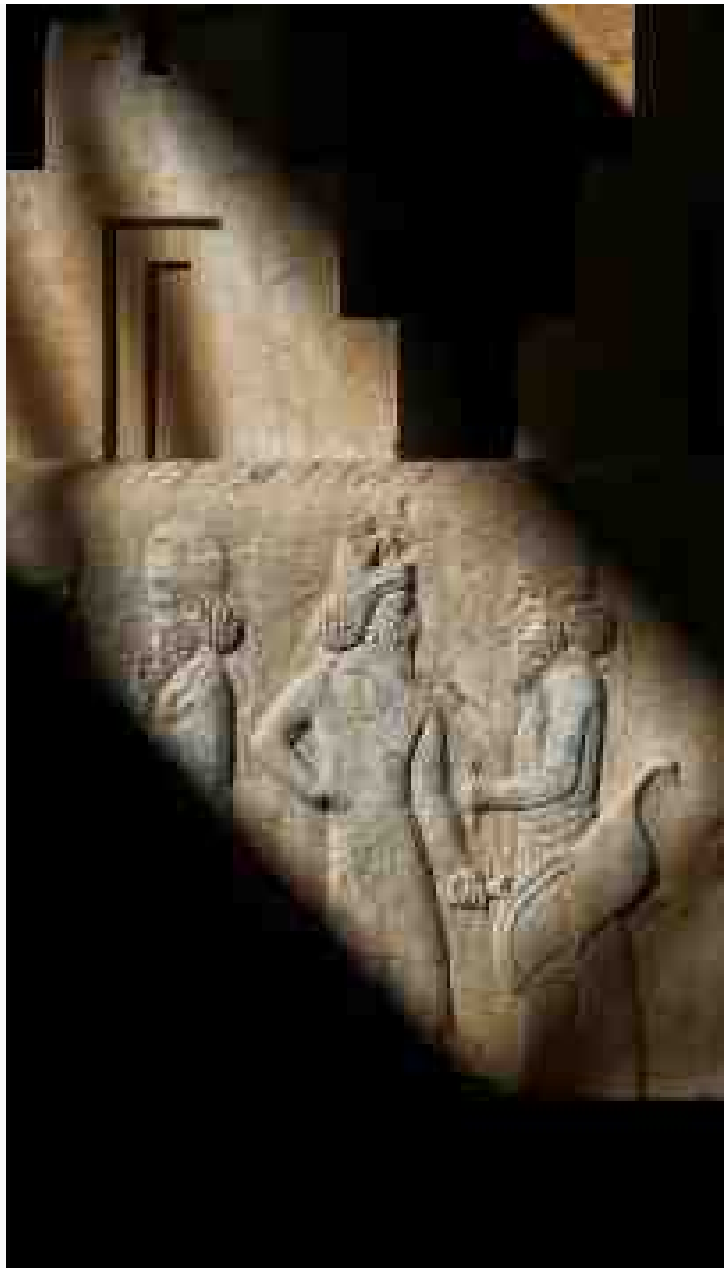
＊“小さな男”

■主以外は礼拝しないモルデカイの信仰

密告　モルデカイの拒絶　エステル3:3～4

王の門のところにいる王の家来たちは、モルデカイに「あなたはなぜ、王の命令に背くのか」と言った。 彼らは毎日そう言ったが、モルデカイは耳を貸そうとしなかった。それで、モルデカイのしていることが続けられてよいものかどうかを確かめようと、これをハマンに告げた。モルデカイが、自分がユダヤ人である*ことを彼らに打ち明けていたからである。

＊唯一の神のみを礼拝するユダヤ人である

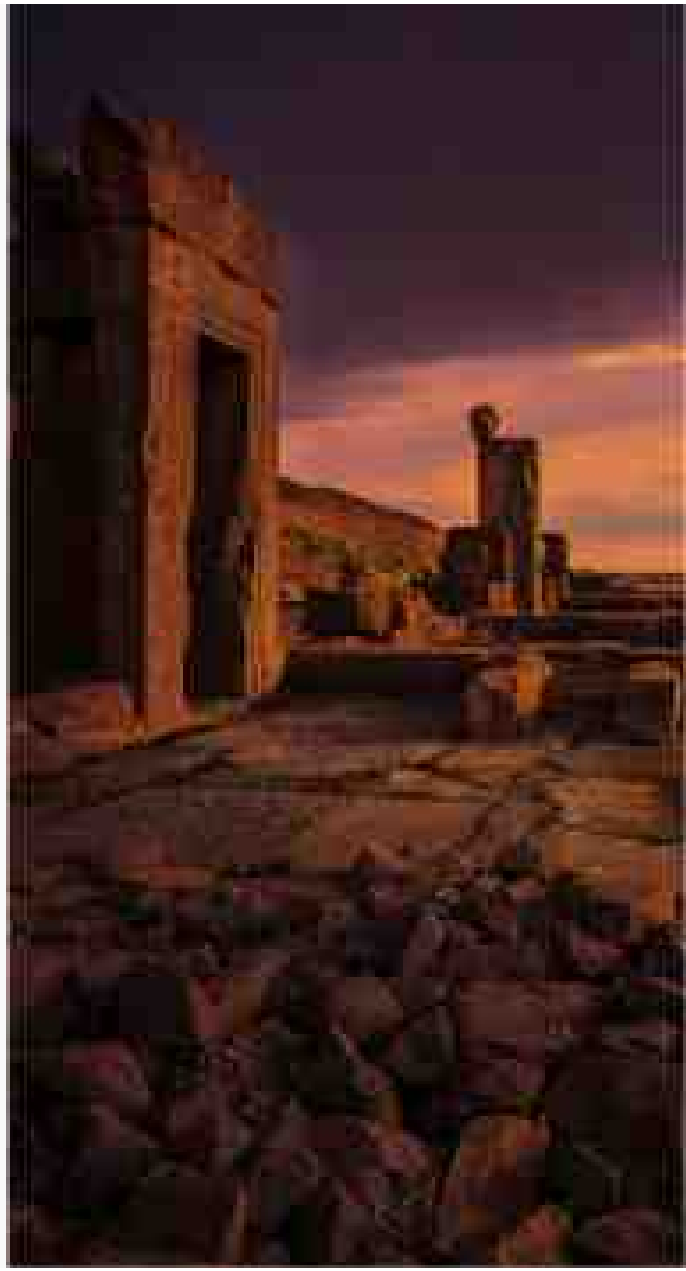


憤激　怒りの矛先　エステル3:5～6

ハマンはモルデカイが自分に対して膝もかがめず、ひれ伏そうともしないのを見て、憤りに満たされた。 しかし、ハマンはモルデカイ一人を手にかけるだけでは満足しなかった。モルデカイの民族のことが、ハマンに知らされていたのである。それでハマンは、クセルクセスの王国中のすべてのユダヤ人、すなわちモルデカイの民族を根絶やしにしようとした。

■唯一の神の民、ユダヤ人の存在が許せない。

➡理由なき憎悪こそ反ユダヤ主義の本質



陰謀　くじ　エステル3:7

クセルクセス王の第十二年の第一の月、すなわちニサンの月に、日と月を決めるためにハマンの前で、プル*、すなわちくじが投げられた。くじは第十二の月、すなわちアダルの月に当たった。

＊プリム（くじ）の祭り（今年は3/24）の語源

- ハマンは、偶像への神託で月を決めた。
  第一月にくじを引き、第十二月に決定。
  ➡最大限の猶予期間ができる結果に!!

背後に働かれていたのは神の御手!!

陰謀　神の民への中傷　エステル3:8

ハマンはクセルクセス王に言った。「王国のすべての州にいる諸民族の間に、散らされて離れ離れになっている一つの民族*があります。彼らの法令はどの民族のものとも違っていて、王の法令を守っていません。彼らをそのままにさせておくことは、王のためになりません」

＊アッシリア、バビロニアの時代から
　各地に離散していたユダヤ人たち

陰謀　王の証印　エステル3:9～10

「王様。もしよろしければ、彼らを滅ぼすようにと書いてください。私はその仕事をする者たちに銀一万タラント*を量って渡します。そうして、それを王の宝物庫に納めさせましょう」

王は自分の手から指輪を外して、アガグ人ハメダタの子で、ユダヤ人の敵であるハマンにそれを渡した。

＊銀340 t

■ユダヤ人殲滅のために莫大な予算がついた!!

陰謀　法令の発布　エステル3:11～12

王はハマンに言った。「その銀はおまえに与えられるようにしよう。また、その民族もその銀でおまえの好きなようにするがよい。」

そこで、第一の月の十三日に、王の書記官たちが召集され、ハマンが、王の太守、各州を治めている総督、各民族の首長たちに命じたことがすべて、各州にその文字で、各民族にはその言語で記された。それは、クセルクセスの名で書かれ、王の指輪で印が押された*。

＊王からの絶対的な命令として下された。

陰謀　送られた書簡　エステル3:13

書簡は急使によって王のすべての州へ送られた。それには、第十二の月、すなわちアダルの月の十三日の一日のうちに、若い者も年寄りも、子どもも女も、すべてのユダヤ人を根絶やしにし、殺害し、滅ぼし、彼らの家財をかすめ奪え*とあった。

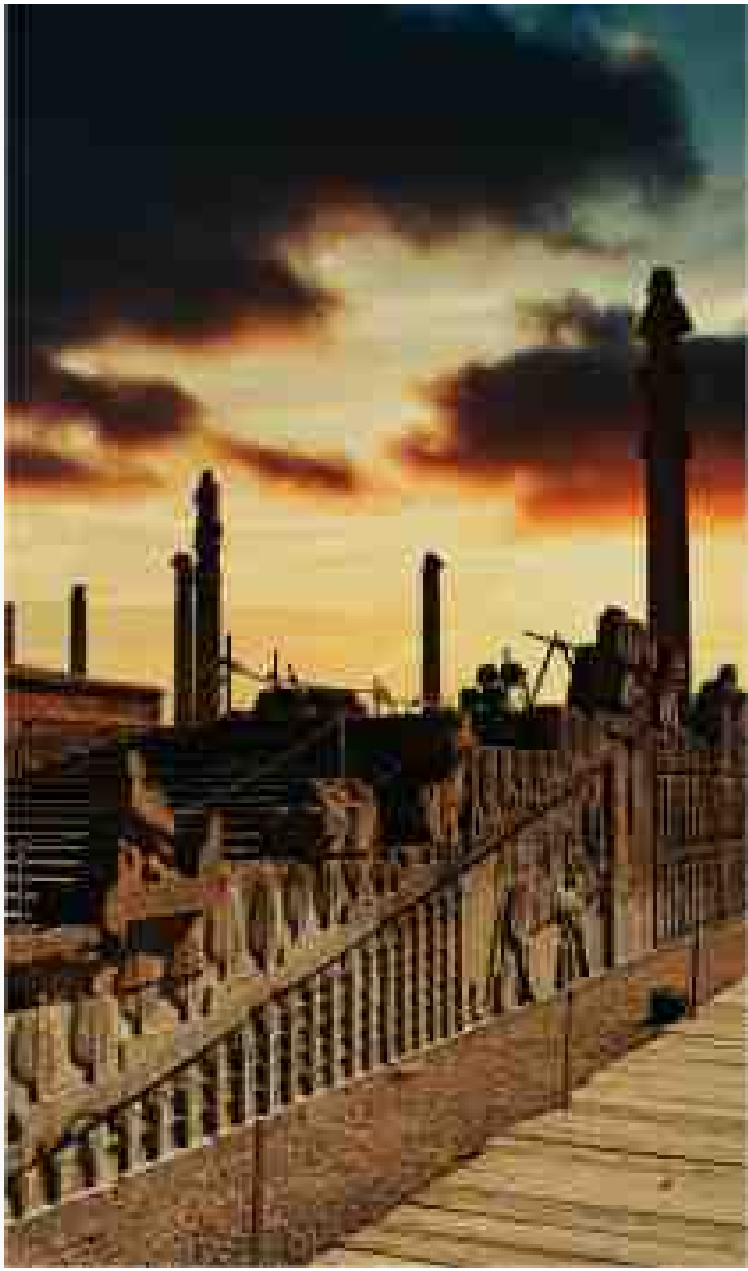
＊イスラエルの土地も全てペルシャの支配。
支配地域内にほとんどの離散のユダヤ人も。

史上最悪の民族殲滅の危機に!!

陰謀　法令の公示　エステル3:14～15

各州に法令として発布される文書の写しが、この日の準備のために、すべての民族に公示された。

急使は王の命令によって急いで出て行った。この法令はスサの城でも発布された。このとき、王とハマンは酒を酌み交わしていたが、スサの都は混乱に陥った。



II.　エステルの覚悟　　エステル記4章

ペルセポリスの遺跡

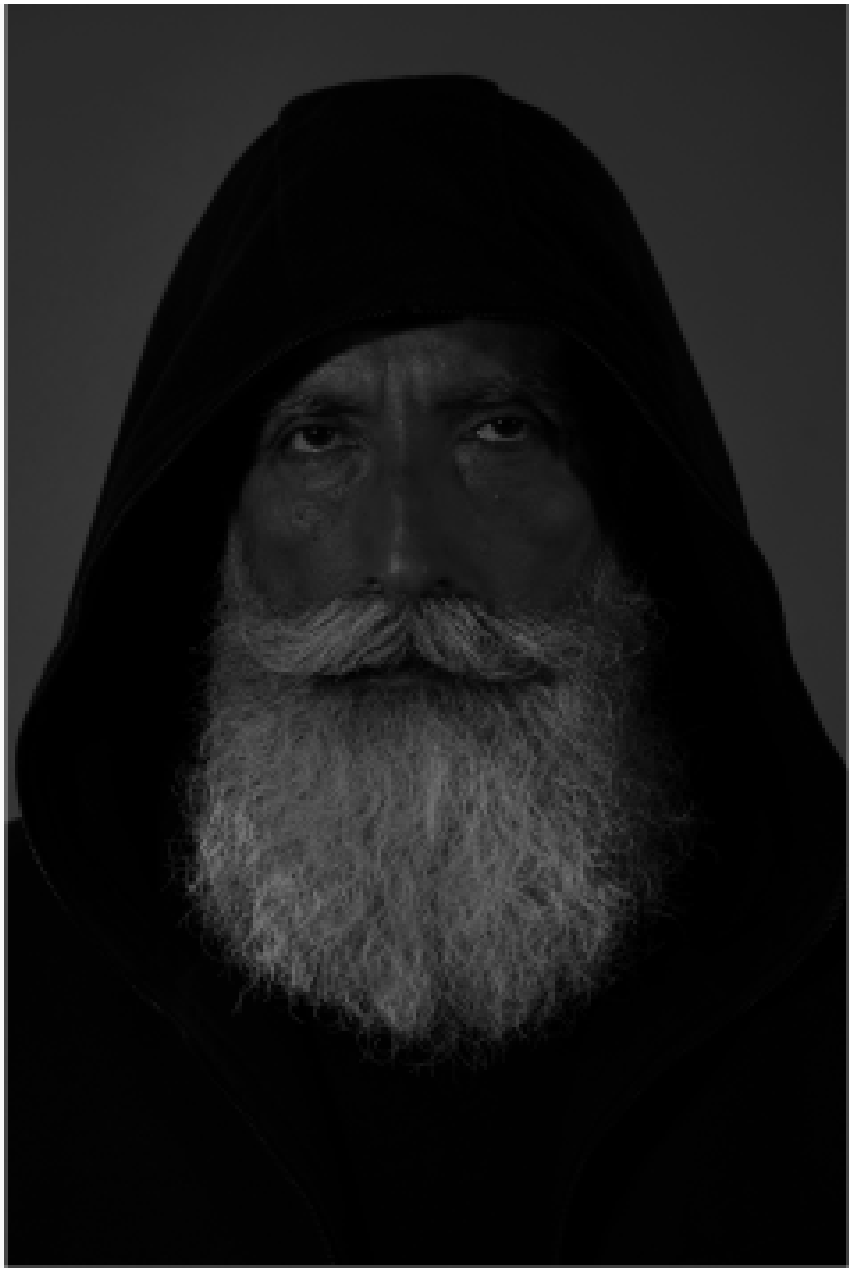
嘆き　知らされた真相　エステル4:1～2

モルデカイは、なされたすべてのことを知った。モルデカイは衣を引き裂き、粗布をまとい、灰をかぶり*、大声で激しくわめき叫びながら都の真ん中に出て行った。

そして王の門の前のところまで来た。王の門の中には、粗布をまとったままでは入ることができなかったのである。

＊ユダヤ人の悲嘆の最大限の表現

➡何より主に対する訴えかけ



嘆き　ユダヤ人の悲しみ　エステル4:3～4

王の命令とその法令が届いたどの州においても、ユダヤ人の間には大きな悲しみがあり、断食と泣き声と嘆きが起こり、多くの人たちは粗布をまとって灰の上に座った。

エステルの侍女たちとその宦官たちが入って来て、彼女にこのこと*を告げたので、王妃は非常に痛み苦しんだ。彼女はモルデカイに衣服を送り、それを着せて、粗布を脱がせようとしたが、彼はそれを受け取らなかった。

＊モルデカイやユダヤ人が嘆いていること

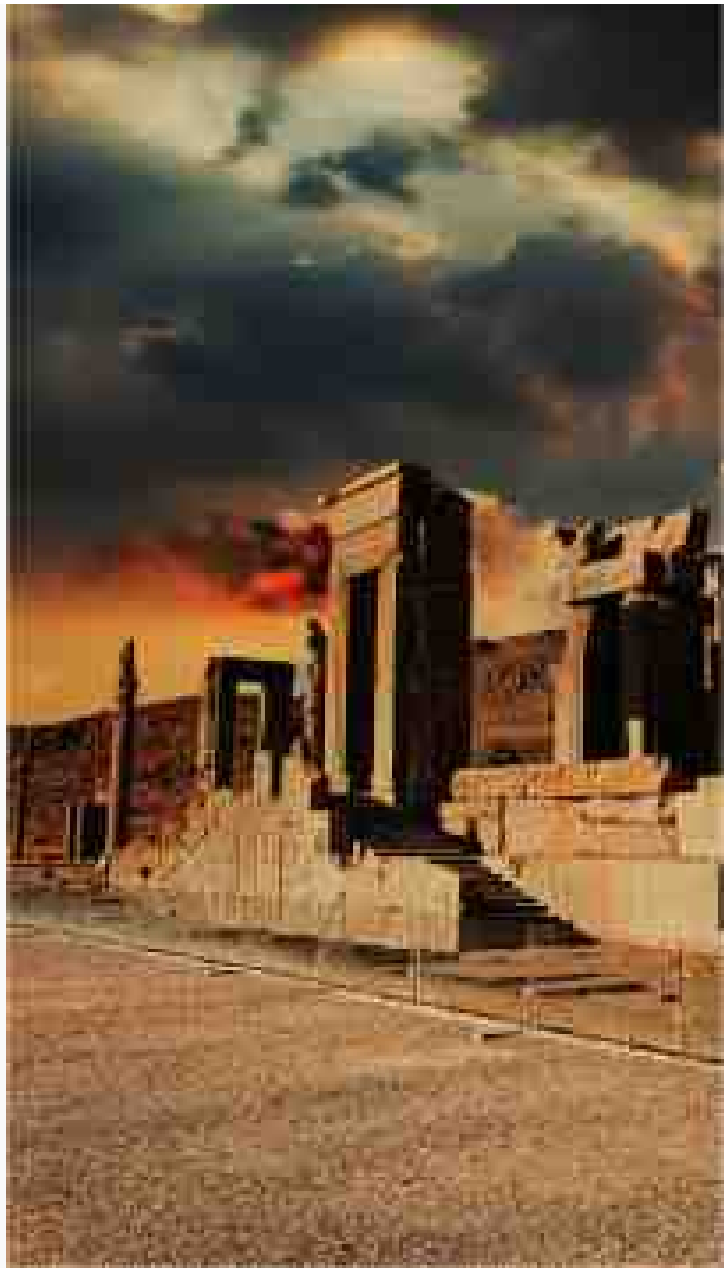
嘆き　エステルの懸念　エステル4:5～6

エステルは、王の宦官の一人で、王が彼女に仕えさせるために任命していたハタクを呼び寄せ、モルデカイのところへ行って、これはどういうわけか、また何のためか*と聞いて来るように命じた。

ハタクは王の門の前の、町の広場にいるモルデカイのところに出て行った。

＊ことの真相は知らされていないエステル

➡政治的には孤立していた



嘆き　告げられた真実　エステル4:7～8

モルデカイは自分の身に起こったことをすべて彼に告げ、ハマンがユダヤ人を滅ぼすために王の宝物庫に納めると約束した、正確な金額も告げた。

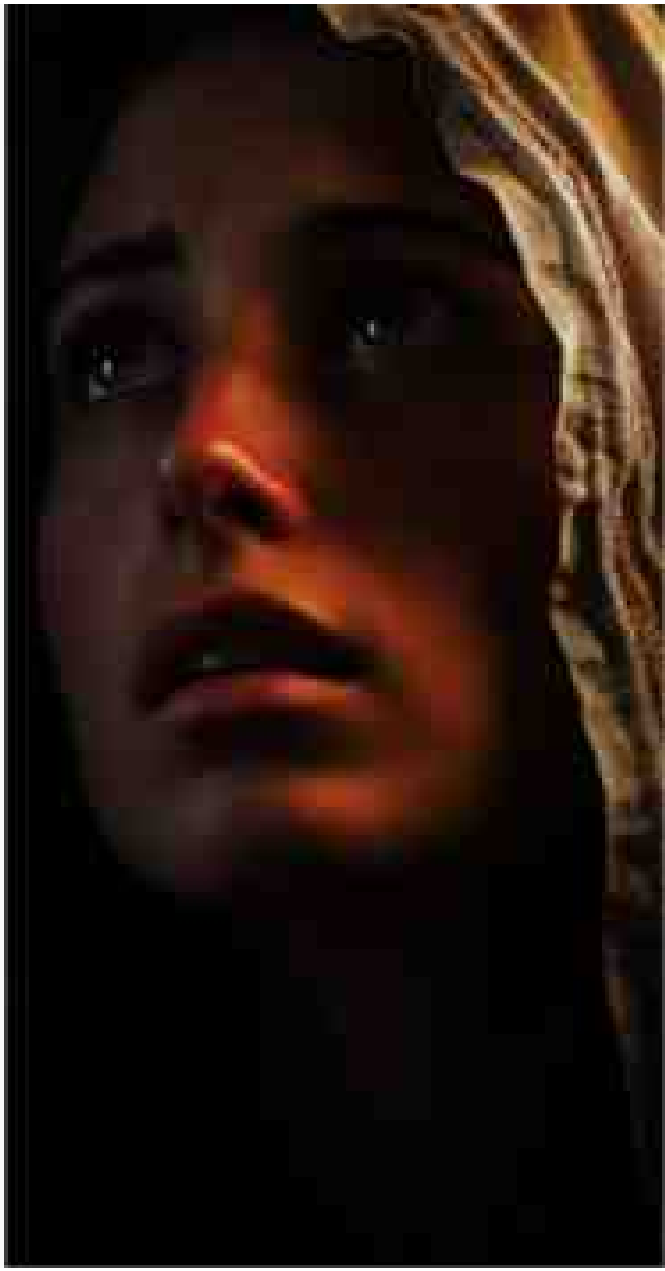
また、ユダヤ人を根絶やしにするためにスサで発布された法令の文書の写しを彼に渡した。それは、エステルに見せて事情を知らせ、そして彼女が王のところに行って、自分の民族のために王からのあわれみを乞い求めるように、彼女に命じるためであった。

嘆き　エステルの戸惑い　エステル4:9～11

ハタクは帰って来て、モルデカイの伝言を　エステルに告げた。 エステルはハタクに命じて、モルデカイにこう伝えた。

「王の家臣たちも王の諸州の民も、だれでも知っているように、召されないのに奥の中庭に入って王のところに行く者は、男でも女でも死刑に処せられるという法令*があります。ただし、王がその人に金の笏を差し伸ばせば、その人は生きながらえます。私はこの三十日間、まだ王のところへ行くようにと召されていません」

＊王妃でも、王への願い事自体が命がけ



提言　モルデカイの返事　エス4:12～13

彼がエステルのことばをモルデカイに告げると、モルデカイはエステルに返事を送って言った。「あなたは、すべてのユダヤ人から離れて王宮にいるので助かるだろう、と考えてはいけない」

提言　モルデカイの確信　エステル4:14

「もし、あなたがこのようなときに沈黙を守るなら、別のところから助けと救いがユダヤ人のために起こる*だろう。しかし、あなたも、あなたの父の家も滅びるだろう。あなたがこの王国に来たのは、もしかすると、このような時のためかもしれない。」

＊主は約束を守られる。モルデカイの確信。

■エステルが拒めば、主は他者を用いられる。

➡神の計画は個人の決断に左右されない。

決意　エステルの依頼　エステル4:15～16

エステルはモルデカイに返事を送って言った。

「行って、スサにいるユダヤ人をみな集め、私のために断食してください*。三日三晩、食べたり飲んだりしないようにしてください。私も私の侍女たちも、同じように断食します」

＊断食とは、食べる間も惜しんで祈ること

決意　エステルの覚悟　エステル4:16～17

「そのようにしたうえで、法令に背くことですが、私は王のところへ参ります。私は、死ななければならないのでしたら死にます*。」

モルデカイは出て行って、エステルが彼に頼んだとおりにした。

＊自分の命を主の御手に委ねたエステル

Ⅲ. まとめと適用　神の約束と私たちの側の応答

生きていたユダヤ人の信仰

- ハマンを拝むことを拒絶したモルデカイ
  ➡バビロン時代のダニエルや3人の若者たちのように

- 殲滅の危機に、神に向かって嘆き、
  断食して祈った、エステル、モルデカイ、ユダヤ人たち
  ➡ダビデや歴代の善王たち、預言者たちのように

- 王妃となったエステルに、神の意図を汲み取ったモルデカイ
  自分の命を主の御手に委ねたエステル

民族殲滅の危機がユダヤ人の信仰復興を引き起こした

ユダヤ人の民族的危機と信仰復興

■士師～王国時代に繰り返されたパターン

➡背信　➡危機　➡悔い改め　➡信仰復興

■バビロン捕囚も、捕囚民に信仰復興を促した

➡捕囚からの解放も、一部が帰還しただけで50年が経過

■解放者だったはずのペルシアで再び民族殲滅の危機に

➡異国の地で預言者もいない中の史上最悪の危機!!

危機の中、神の民として一致させられていくイスラエル

反ユダヤ主義の歴史と背後に働く力

- エジプトでのファラオによるユダヤ人男子殺害命令

- イスラエルを侵略した民族や国々
  アマレク、ペリシテ、アラム、アッシリア、バビロニア、ペルシア、ギリシャ、ローマ、十字軍、ムスリム…。

- ユダヤ人への世界的な迫害
  ロシアのポグロム、中東での虐殺、ナチスのホロコースト

- イスラエル殲滅を掲げるハマス、ヒズボラ、背後のイラン

背後に働く　神に逆らうサタン

★　神の計画と私たちの側の応答　★

■苛烈な迫害下で、イスラエルを支えたのは、神の約束
　➡義なる神の約束は、計画された通りに進んでいく

■私がやらなければ？　主は他者を用いられるだけのこと
　➡個人の意思に、神の計画は左右されない

■やるかやらないか、自由意志の上に個々人に委ねられている

■主が、恵みとして与えられている奉仕の機会がある

応えて用いられ、さらなる祝福を味わい知らされて行こう

「天のお父さま。わたしの罪をゆるしてください

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

私は、イスラエルへの約束に接ぎ木され、恵みを受けています。

神の民であるイスラエルが、真実のメシアに立ち返りますように。

殲滅を企てる激しい敵の攻撃から、イスラエルをお守りください。

主の呼びかけに応えて私を用い、さらなる恵みで満たしてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。　アーメン」